

平成23年 3月11日の東日本大震災発生から5年

震度6以上の地震が…その直後 大きな津波が多くの犠牲者を出し、原発をも破壊した。15,894人ものが亡くなり、いまだに身元が発見されていない人も多い。

そして震災直後の人々は生き延びるために必死になり、震災発生から5年を迎える。復興にむけ、周囲の環境は少しずつ変わろうとしているが、震災を受けた人達の心は悲しく、辛い思い出と生き続けなければならない。『ケアホーム希望』を今月から利用している Oさん

夫婦の息子家族は宮城県の気仙沼でその震災に出会った。やさしいお嫁さんと、愛する孫2人を失ってしまった。そのショックはとて大きく、心が痛む5回目のこの日を迎えた。



Oさんご夫婦



ここは みんなが
助けてくれるから
大丈夫だよ



『ケアホーム希望』でも 震災のあった
3月11日午後2時46分みんなで1分間の
黙とうをした。

毎年3月11日になると新聞やテレビ等のメディアで震災時の状況やその後の復興状況が連日報道されるが、いつの間にか人々の記憶から少しずつ薄れてきている。

今回は気仙沼に住む Oさん夫婦の息子Kさんが震災復興に向けて頑張っている姿を聞き、今だからこそ、私たちが出来ることを考えなければならない。Kさんは助かった小学生の息子を抱え、家業の牛乳販売を営んでいる。震災当時は愛する家族を失った悲しみで何も考えられず、途方に暮れる毎日で生きる希望さえなかったという。荒れ果てた町に作られた仮設住宅で野球好きの息子とキャッチボールをするのが唯一安らぎの時間だった。そんなある日、「お父さん、気仙沼にバッティングセンターをつくってよ！」の一言が父親を奮い立たせ、いつしか町の人たちみんなの夢となり、バッティングセンターができた。Kさんは「**思いを口にして、共有できる仲間がいると夢は必ず実現する**」と実感したという。また、復興に向けて全国をまわり、気仙沼の物産展を開いたり、「希望ののむヨーグルト」や「塩サイダー」等のオリジナル商品を開発し、インターネット等で販売をしている。Oさん夫婦も緑ヶ丘で販売し、息子や孫を支えている。『ケアホーム希望』では、昨年の夏「塩サイダー」を購入。高齢者はのど越しのいいサイダーが大好きで、更に塩分が入っているので脱水予防にもなり、最高の飲み物である。

またKさんは、震災の恐ろしさや、その対策、復興に向けての講演を全国で行い、その状況を本にし、「**こころ、の復興こそが大事である**」と伝えている。



Kさん、ご両親がいつまでも元気にお嫁さんやお孫さんの分まで長生きできるよう支援します。
安心して復興に向けた活動をこれからもがんばってください！ ケアホーム希望 職員一同より

3月3日

ひなまつり



今日はどんな美味しいものが食べれるの？



私たちは…もちろん御姫様よね？



おひなさまとおだいりさまかな？



お誕生日おめでとう!

祝



平成生まれ…?! あんたこれからがんばんなさいよ!



祝 83歳

入院して大変だったけど誕生日を迎えられてうれしいね



私…24歳になりました!



祝 97歳

まだまだ元気で頑張るからよろしくね!



祝 73歳



祝 76歳



祝 94歳

のぞみ 希望 日誌

宮城県気仙沼から20歳で上京して以来、70年余り東京で一人暮らしを続け、平成26年に食欲低下、脱水症状で『ケアホーム希望』の利用となる。

毎日、玄関先で雨の日も雪の日も職員の迎えを笑顔で待っていてくれたMおばあちゃん。

3月17日 95歳 老衰で安らかに『ケアホーム希望』で、みんなに見守られ永眠しました。

いつも元気な笑顔をありがとう! Mおばあちゃん 天国で安らかに。

